



渡部和成名誉院長 執筆著書一覧



① 回復・就労・結婚 統合失調症患者12人の軌跡 ～コロナ禍をブリリアントに生きる～



患者さんやご家族のもっとも大きな不安—それは統合失調症が発症したのちの生活に対するものかもしれません。「経済的自立はできるのか?」、「結婚し家族をもつことはできるのか?」…。山積する将来の憂慮に対し、著書はひとつの明確な答えを投げかけます。「統合失調症治療の専門家という看板を掲げて20年になるが、これほどの重症患者さんは、この患者さんの前にも後にもいない」と著書が述懐するA患者の外資ビジネス社会での華やかな現在の活躍をはじめ、著書が強く印象に残す患者12名の回復・就労・結婚の事例をまとめました。ご本人・ご家族にぜひご一読いただきたい内容となっております。

② わかった！ 統合失調症のベスト治療 ～病から脳とところを解き放つ



「真に患者さんのためになる医療とは、いったいどういうものだろうか?」「患者さんは、ひとりの尊厳ある人としての人生を送るために、どう統合失調症と向き合い、どう生きていけばよいのだろうか?」この問いに答えられる精神医療を探究し、長年統合失調症治療にかかわってきた著者が、豊富な臨床経験をもとに具体的な方法や技術、考え方を伝えます。統合失調症治療で大事なことをわかりやすく、13のエッセンスにまとめました。患者さん、ご家族から、医療・福祉・行政関係の方々まで、幅広く役立つ内容です。

③ 統合失調症を悩まないで ～家族がみつけた幸せへの道



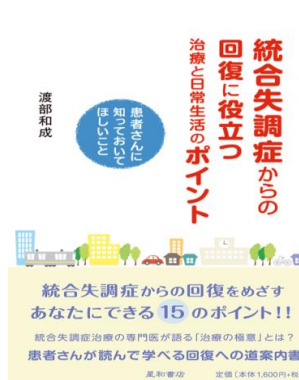
統合失調症の治療では、統合失調症について患者さんや家族に理解してもらうために行う勉強会(心理教育)が効果的です。心理教育の場で家族が統合失調症について学ぶことで、家族の心や態度が変わります。このことが統合失調症患者の病状改善と社会参加を促すことに繋がります。著者は、患者さんに対する心理教育とともに、家族に対する心理教育である家族教室を開き、家族会を組織してきました。この家族会活動で幸せへの道を歩みだした家族メンバーから、この活動を全国のご家族に伝えたいという希望が著者に寄せられました。本書は、この家族の手記を著者が監修し、解説やコメントをつけてまとめたもので、まさに家族と二人三脚で作上げた希望の書になります。家族会活動が、真に患者さんを回復に導き、家族を幸せにできていることを本書は実例をもとに伝えております。

④ 専門医がホンネで語る統合失調症治療の気になるところ



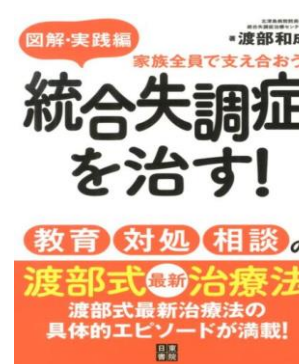
統合失調症の治療では、患者さんが悩みや症状の苦しみや不安などをホンネで医師に語り、医師がその苦悩を真摯に受け止めつつホンネで助言することが理想です。患者さんやご家族は、治療現場でどのようなアドバイスを必要としているのか、これに対して著者は、統合失調症治療の専門家として、「治療で気になること」「急性期後の安定期で気になること」「回復に向けて気になること」の視点からホンネでその答えを語ります。統合失調症の基礎知識をまとめて解説している付録も、わかりやすくきわめて有用です。

⑤ 統合失調症からの回復に役立つ治療と日常生活のポイント ～患者さんに知っておいてほしいこと～



統合失調症からの回復と自立に向けて、具体的にどのように治療し、患者さんはどのような日常生活を送ればよいのか、長年、統合失調症治療の専門家として患者さんへの指導や助言を行ってきた著者がたどりついた「統合失調症治療の極意」をあますところなく伝授します。患者さんが実践しやすくわかりやすいよう丁寧な解説をつけ、15のポイントにまとめました。また、15のポイントがうまく活用できている症例を数多く紹介することで、どのように実生活に取り入れたらよいか手が取るようにわかります。患者さんの視点に立った有用な情報が満載です。

⑥ 統合失調症を治す！教育・対処・相談の渡部式最新治療法 図解・実践編



患者さんが前向きに病気を克服していくための実践編。教育・対処・相談モデルという3原則で患者と家族が一体になった治療法を解説します。患者さんが前向きに病気を克服していくための実践編になります。病気への対処の仕方をより具体的に解説します。教育—対処—相談モデルという渡部式の3原則で、患者さんにご家族が一体となった治療法を示します。豊富な対応実例のエピソードを入れて、患者さんを持つご家族の悩みにお応えする、分かりやすく、読みやすい内容となっております。

⑦ 統合失調症患者を支えて生きる家族たち



統合失調症の患者さんを上手にサポートできるようになった家族、統合失調症からの回復に向けて、それらの家族の「真似をする」ことが、効果的な対処法を実践できるようになる近道です。本書では、著者が家族会や外来診察室などで出会った家族の中から、統合失調症という病気をよく理解し、患者さんととてもうまく付き合っている素晴らしい家族を25例紹介します。全国の統合失調症の患者さんを持つ家族が、本書で紹介した家族の統合失調症治療への理解と対処の「真似」をすることにより、患者さんのみならず家族自身が元気になるヒントと安心を得ることができます。患者さんの病からの回復のために、家族として大事な役割を学び、良い対処法を実践している家族の例を読んで、さっそく「真似」をしましょう。家族が体験から発した言葉は、すべてのご家族のヒントになると思います。

⑧ 統合失調症から回復するコツ ～何を心がけるべきか～



真の統合失調症の治療とは、何か、病気を克服し、うまく生きていくためには、どうすればよいか、著者は、永年の統合失調症の治療経験から、必要不可欠な治療技術や心構えを本書の中で詳細に説明します。著者は、これを「コツ」と呼びます。本書は、治療を受ける人(患者さん)、治療を支える人(家族)、治療する人(医療者)、それぞれに必要なコツを紹介します。患者さん・家族への心理教育や薬物療法のノウハウを、症例をまじえてわかりやすく解説します。多くの統合失調症の患者さんたちが、このコツを身につけ活用し、回復することを願って書かれた本書は、患者さんのみならず医療者、ご家族にとって必読の書と言えます。

⑨ 統合失調症に負けない家族のコツ ～読む家族教室～



統合失調症から患者さんが回復するには、ご家族にもコツが必要です。さらに、ご家族自身が統合失調症に負けないコツを身につけることも重要です。本書は「読む家族教室」という読者参加型のスタイルをとり、統合失調症という病気について、適切な対応の仕方について、ライブの感覚で、生きた情報を伝えています。『統合失調症から回復するコツ』の著者がご家族に贈る、待望の続編です。

⑩ 統合失調症からの回復を願う家族の10の鉄則



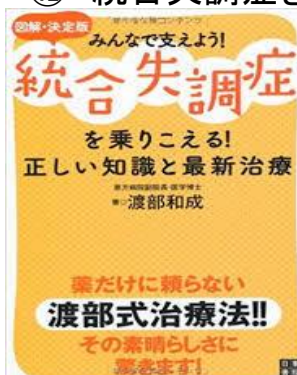
統合失調症に打ち勝ち、統合失調症からの回復を実現させるために、ご家族は日常生活を送る中で具体的にどういふことに気をつければよいのでしょうか。患者さんの病からの回復を願うご家族が統合失調症治療を実践的な側面から理解して、明日のご家族の在り方のヒントを得ていただけるように、ご家族に日常生活の中で留意していただきたいことを「10の鉄則」にまとめました。患者さんの回復をサポートしながら、ご家族自身も生き生きと豊かな人生を送れるようになるヒントが満載です。『統合失調症から回復するコツ』『統合失調症に負けない家族のコツ』の著者がご家族に贈る、待望の第3弾になります。

⑪ いま求められる統合失調症診療の進め方



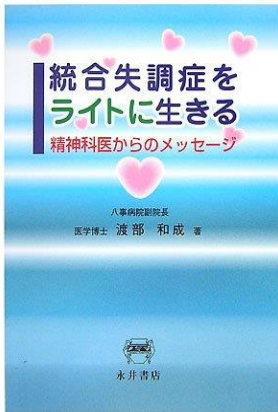
患者を中心とした適切な統合失調症治療を行う上で必須な、面接、薬物療法と心理社会療法における重要点、および実施上の要領について、わかりやすく解説しています。診療の流れを俯瞰的に理解していただけるよう構成され、著者の診療経験を紹介しつつ、患者さんとご家族が求め、納得し満足していただける治療法のノウハウをやさしくまとめあげています。医師、コメディカルスタッフ、統合失調症の患者をお支えのご家族の方々に、是非ご一読いただきたい一冊です。著者の記憶に残る16の症例を挙げながら、統合失調症診療の進め方を平易に解説しています。著者による診療スキームは、より高度な統合失調症診療の医学知識を求められるご家族にもお勧めです。

⑫ 統合失調症を乗り越える! 正しい知識と最新治療



統合失調症患者を家族や関係者が正しく理解し、どう支えていくか？本書は、統合失調症治療に心血を注いできた著者が「私の治療法」として相談モデルを出し、独自の治療法を述べてます。家族と共に支えるケース、医師としての心構えなど、360度に渡った視点で、統合失調症に立ち向かうスタイルをアグレッシブに提案しております。従来の「統合失調症」書籍に物足りなさを感じていた読者の方に、ぜひ、ご一読をお勧めしたい最新治療の書です。統合失調症の患者さんをご家族が正しく理解して、どのように支えていくのか？豊富な臨床経験に基づいた著者独自の前向きな治療法が希望の光りを与えてくれます。

⑬ 統合失調症をライトに生きる ～精神科医からのメッセージ～



統合失調症に打ち克ちライトに(軽やかに/前向きに)生きるために、本書は、統合失調症に悩む患者さんと家族、そしてそれをサポートする精神科医のために書かれました。統合失調症は、思考や行動、感情をある目的に沿ってまとめて行く能力が長期間にわたって低下する回復可能な症状群で、100人に1人が罹患するまれではない慢性疾患です。治療の重要要素は、最近、臨床使用されるようになったユニークな抗精神病薬による薬物療法と、医師の指導のもとに行われる患者心理教育、家族心理教育ですが、それらを奏効させる前提は『病名告知』であると著者は説きます。患者さんと家族が主体的、積極的に治療に参加していくためには疾患を正しく理解することが重要です。入院後はなるべく早期から患者さんと家族が患者・家族心理社会教育に参加することで、退院後の予後を良くし、再入院率が抑えられることを実際例をあげて平易に説明しています。患者・家族心理教育を重視した統合失調症治療を長年行っている著者が、ふれた、感じた、統合失調症をライトに(軽やかに)生きるポイントを詳解します。

⑭ 統合失調症だけ大丈夫 ～回復と自立へのあいこと



2007年に出版された「統合失調症をライトに生きる」では、著者の統合失調症における治療姿勢に患者さんやその家族、また精神医療関係者にも幅広い支持を受け好評を博した。それから5年、今回、さらに経験を積んだ著者が、最も進歩した形での統合失調症に対する治療姿勢と治療法をもっと多くの悩める方々に知ってもらうため、新訂版として本書を執筆しました。「統合失調症だけ大丈夫」、この言葉は著者が患者とその家族にかけている言葉です。統合失調症は必ず“良くなる”病気だと理解してもらうとともに、著者の治療法に対する強い信念が込められています。本書では、著者の診療姿勢・方針とともに、著者とともに治療を受け、ライトに(前向きに、軽やかに)生きようとする方々の症例も多数掲載しています。患者さん、その家族、精神医療関係者に本書をぜひ読んでいただき「統合失調症だけ大丈夫」だと考えれることで、より一層ライトに生きる事を応援する著書です。

⑮ 患者と家族が主体のこころの医療 新しい統合失調症治療



統合失調症の患者さんとその家族にはそれぞれこころのドラマを抱えており、そのこころのドラマにこそ病から癒えるための鍵があると筆者は考え、“ものがたり医学”を治療のバックボーンに据えています。ものがたり医学の本質は、患者さんが本当の言葉で生き生きとこころのドラマを語り、医師がそれをありのままに受け止めることで生まれる患者と医師との対話を重視した、全人的医療を実現することにあります。本書では、ものがたり医学を礎に、非定型抗精神病薬を用いた薬物療法に患者・家族心理教育を組み合わせた新しい統合失調症治療のあるべき姿を、著者の豊富な臨床例と研究データにより示しています。